
Angel Beats after store

岳志

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

A n g e l B e a t s a f t e r s t o r e

【Nコード】

N 5 4 0 2 P

【作者名】

岳志

【あらすじ】

転生後の話です

音無が入江や天使、遊佐などに好意抱かれます

再会

「…日向の奴いつまで、待たせるつもりだ」

携帯を見ながら時間を確認してため息をつく

今日は日向と一緒に野球の観戦をしようといいだし、あまり乗り気ではなかったが、受験も終わり、暇だったので承諾してしまった。

約束したことに少し後悔している

「まったく時間ぐらい、守れよな…」

また、ため息を漏らす暇なので適当に辺りを見渡して時間をつぶすことにしよう

それにしても人が多い駅前ってこともあるが今は春休みだからだろう

そんなことを思いながら人混みを眺めていたら、麦藁帽子を被ってる銀髪の少女が俺の目の前を通り過ぎるのを見た瞬間、頭で思考するよりもはやく体が反射的に動き、その少女の肩を掴んでしまった

銀髪の少女がこちらを振り向いて目を丸くして驚いてる

なにかいわないと、思っけていても頭の中がもう真っ白でなにを言葉がでない

ただその少女がとても天使みたいに綺麗だなくくらいしか頭に浮かばなかった

その少女もどうやら混乱しているみたいだ

それはそうだろいきなり肩を掴まれたんだ、たちの悪いナンパって思われても仕方ないだろう

そう思われないなめにもここは弁解しない……っていったいなにを弁解すればいいんだ!!

いきなり肩を掴んどいて 「あっ、いやナンパじゃあないですよ…
ハハハハハハ」
っていえるかボケ!!

それじゃあただの変人じゃあないか!

だったらどうすれば

…一瞬内に、いろいろ考えた時、音無の頭の中に電撃が走る

そうだ一発ギャグすればいいんだ!!

この時の俺は非常にテンパっていたので正常の判断ができていなかった。「知り合いと間違いました」って答えればよかったのにと…今と思う

「…俺今日家に忘れものしたんだ?」

「…なにを忘れたの?」

横に首傾げながら

、いきなり音無の質問に普通に聞き返してくる少女。

というか一発芸ではない…テンパっているからそんなことも考えられないでいる

「財布とケータイと、

それと……ベンザカバー!!!!!!」

ベンザカバーという所だけ強調し体で表現する。

どっかのアニメでやっていたようなギャグであるのを真似してみた

「ねーねお母さんあの人頭平気なの?」

「しっ、見ちゃいけませ」

人がたくさんいる所でベンザカバーと叫んだので周りから変な人を

見るような目で見られる

くっ…どうしてこんな馬鹿なことを…

「……ふふ、ベンザカバーは関係ないでしょう」

笑ってくれた

とりあえずは目の前少女が笑ってくれたので作戦は成功だ

まあ…ものすごい恥ずかしいけど…

それにしても笑った顔が可愛いなーこれだけ可愛いとそうとうモテるだろうなと思っていると

「…名前」

「？」

名前って、えーと名前を答えろということか？

「あなたの名前は？」

まさか俺の本名を聞いていきなり肩を掴んだことを裁判に訴えるのか？

と馬鹿なことを考えるがそんなわけないかと思い、正直に答える

「音無結弦」

「そう、綺麗な名前ね」

俺の名前を聞いてどこか嬉しそうにしている…気のせいだと思うけど

「ありがとう、

名前が綺麗だって言われたの初めてだよ」

「そうなの？」

ちよこんと横に首を傾げる動作にドキッときてしまった

「あ、ああ、そうだよ、君のな…」

「よう、音無遅れてすまん、待ったか？」

肩を叩かれて反射的に振り返ってしまった。なんだ日向か

「…ああ、別に対して待ってない」

「…なんか、今俺にたいして失礼なことをおもわなかったか？」

「…気にするな」

「…まさかの肯定かよ!!そこは嘘でもいいから気のせだって言うもんだろ」

「じゃあ気のせいだ」

「ガッテム!!」

いきなり頭を抱えて悶え出した

変な人の知り合いだと思われたくないので距離をあけることにした

銀髪少女との会話を聞かれたか気になったが、どうやらこの様子聞かれたことはないみたいだ。

日向は悶えながら、「俺は洗濯挟み以下なのか」ぶつぶつ言いだした、きつと前世になにかあったんだろう

。

日向はどうでもいいので、銀髪の少女の方を向くが：

「……」

そこには誰もいなかった：辺りを探してもそれらしき人物を発見できなかった

日向が今だに悶えてるが、俺の頭はさっきの少女のことδειっぱいだった。

とても綺麗少女だったな、名前：なんて言うだろう

名前を聞けなかったことに少し心残りがあるが…

でもまた会える気がする。そんな予感がした。

+

「……音無結弦」

少女が嬉しそうな声で言葉を出す。

「…音無結弦」

さっきよりも大きめ声を出して言う、今度は表情まで嬉しそうにしている。

「また会えるといいな」

その言葉この後現実のものになる。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5402p/>

Angel Beats after store

2010年12月17日02時36分発行